

1 市民、事業者、NPOと市の協働による計画推進

(1) 各部会の活動報告

社会環境部会活動報告（平成22年度） 部会長 野田 直宏

1 部会での活動

「大気・ばいじん」が東海市最大の問題であるということで委員の認識は一致しましたが、市民・行政・事業者の協働で取り組むことが難しいため、「水質」を中心として活動することになりました。

20年度から実施している河川・ため池水質浄化事業を継続し、環境浄化微生物を公共施設での使用や、市民への無料配布をすることで河川等の水質浄化を目指しました。また、モデル地区でのモデル事業終了後の追跡調査として、アンケートを実施しました。

2 河川・ため池水質浄化事業の主な活動内容

① 水質調査

単位：mg/ℓ（pH除く）

	年度	pH	DO	BOD	COD	SS	T-N	T-P
上野	20	6.6	3.5	11	9.4	12	6.9	0.43
	21	6.9	4.3	6.3	9.2	21	6.5	0.35
新川	22	6.8	5.6	7.7	8.3	26	7.8	0.38
新池	20	8.5	11	18	30	46	4.1	0.33
	21	9.1	14	37	50	71	5.5	0.57
	22	7.5	12	10	33	49	3.0	0.34

※BODの環境基準 10以下（E類型）

② 水生生物調査（上野新川）

年度	1回目(4月)	2回目(6月)	3回目(8月)	4回目(10月)
20	13種類	19種類	17種類	19種類
21	28種類	19種類	26種類	24種類
22	22種類	19種類	22種類	17種類

③ 環境浄化微生物の無料配布（520本/月）

④ 環境浄化微生物を公共施設において使用（480本/月）

⑤ アンケート調査

(1) 手代が丘町内会での追跡調査

回答率 68%（159/233世帯）

環境浄化微生物を使っている	28世帯
環境浄化微生物を使っていない	131世帯

(2) 公共施設への効果の調査

効果あり	29施設
効果なし	5施設
不明	24施設



上野新川中流部の風景



市役所での無料配付の様子

3 調査結果の考察と今後の課題

アンケート調査では効果ありとの回答も多く、水質調査の結果からも、水質は改善傾向ではありますが、環境浄化微生物の影響によるものなのか、判断しづらく、ある程度長期にわたって比較しなければ効果の検証も難しいと思われるので、今後も調査を継続し、結果を見守っていきたいと考えております。

また、アンケート調査の結果、手代が丘町内会では、モデル事業終了後も継続して環境浄化微生物を使用している世帯が少なく、その理由として無料配付を知らなかった、自分で作るのが困難等の意見が多くみられました。今後、市の無料配付の周知や環境浄化微生物作成の講習会を開く等PR活動にも力を入れる必要があると考えております。

4 協働について感じたこと

市民、団体、事業者、行政は一緒になって様々な分野について環境改善に取り組んでいくことは、とても良いことだと思います。こうした活動を通じて、これまでとは違った分野の方々とのネットワークが広がったことは、貴重な財産となりました。

知多メディアスに所属している私としては、地元の環境関連活動をテレビやFMラジオで積極的に取り上げていきたいと思っておりますので、関連イベント等の情報を御提供いただくと非常にありがたく思います。